

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称
令和5年度第4回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 令和6年2月27日（火）
午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 美里町健康福祉センターさるびあ館 大広間
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員 小野俊次会長、加藤芳郎委員、角田フミコ委員、
庄子哲広委員、小川久美子委員
 - (2) 事務局 美里町長寿支援課 五十嵐華絵、秀城百香
美里町社会福祉協議会 永沼威雄、高橋ゆかり、
青木真理、田村紗希
- 5 議題
 - (1) 開会
 - (2) 会議録署名委員の選出
 - (3) 報告
 - ① 令和5年度いきいき元気サポーター養成講座について
 - ② いきいき元気サポーターミーティング・くらしのサポーターしゃべり場について
 - ③ 遠田見守りネットワーク情報交換会について
 - ④ 生活支援コーディネーターの活動について
 - ⑤ 令和6年度生活支援体制整備事業計画（案）について
 - (4) 協議事項
 - ① 地域の現状から見えてきた課題について
 - ② 課題解決に向けた取組みについて
- 6 会議の公開・非公開の別 : 公開
- 7 非公開の理由
- 8 傍聴人の人数 : 0人
- 9 会議の概要
 - (1) 会議録署名委員の選出 小野俊次会長、角田フミコ委員

○（事務局）高橋ゆかり これより令和5年度美里町生活支援体制整備協議会を開催します。開催にあたりまして、小野会長より御挨拶をお願いします。

○小野俊次会長 今回は、前回話し合っただけで事務局でまとめた課題とその解決に向けた前向きな意見交換をしていければと思います。よろしくお願いします。

○（事務局）高橋ゆかり では、次第に沿って進めていきたいとします。会議録署名委員の選出について皆さんにお諮りしたいとします。

（事務局一任の声あり）

ありがとうございます。では、会議録署名委員を小野俊次会長と角田フミコ委員にお願いしてもよろしいでしょうか。よろしくお願いします。では、報告に入ります。

（1）令和5年度いきいき元気サポーター養成講座について、全5回シリーズで実施しました。今後の活動について意向調査を行いました。活動の意向があるサポーターの皆さんと一緒に、介護予防の啓発・普及、いきいき百歳体操お試し会や体力測定をサポートを次年度から、社会福祉協議会職員と一緒に活動していきます。続いて、（2）いきいき元気サポーターミーティング・くらしのサポーターしゃべり場についてです。協力の意向のあった14名の方に、案内をして、11名の方が参加していただきました。内容としては講座後に活動した内容や情報交換を行いました。その中で、サポーター同士の新しいつながりや他の地域の活動内容を知り、自分の地域で取り入れたという方もいました。また、地域を見る視点が変わったという声も聞こえてきておりますし、通いの場へ行き始めたという方もおり、行動変容のきっかけになったようでした。これまで、講座終了後にどのような活動を行ったなどアンケートのみで把握していたため、活動を追うことができていませんでした。今回、情報交換の場を設けたことで、講座の効果を再確認することができましたので、定期的に情報交換の場を設け、講座の効果を確認していきたいと考えております。4、5ページになります。こちらは、くらしのサポーター養成講座を受講された方30名に、案内をしました。12名の方が参加し、講座の振り返りと情報交換を行いました。サポーター同士のつながりができて、関係性が築けてきました。講座での学びを他の方に伝えた方や地域を見る視点が変わったという話も聞こえています。また、くらしのサポーターについては、講座受講後の活動先が明確ではないため、次年度に向けて役割を再確認するとともに支え合いの活動の在り方について検討していきたいと考えております。次に、（3）遠田見守りネットワーク情報交換会についてです。令和2年度から遠田商工会、涌谷町と連携しながら見守りをテーマに話し合い、取組みをしています。今年度の取組みについて情報共有した後、次年度に向けて話し合いをした際に、商工会から異変に気づいたときに、連絡するにはハードルが高いという声がありました。相談窓口の周知など情報を上げる仕組みを検討していきたいとします。事業所、住民の方も同じですが、連絡相談は大きいハードルになると考えられるため、地域見守り隊通信を活用しながら顔の見える関係性を築いていきたいと考えております。続いて、（4）生活支援コーディネーターの活動についての報告になります。町で行っている介護・福祉サービス事業所連絡会において、町内外ケアマネジャー、介護サービス事業所、障害相談事業所など専門職を対象に活動報告を行いました。最後に（5）令和6年度生活支援体制整備事業計画（案）について報告させていただきます。①生活支援体制整備協議会についてです。来年度から社会福祉協議会で協議体の運営を受託する運びになりました。③生活支援体制整備協議会啓発事業についてですが、名称を改め「支え合い啓発事業」としたいとします。

⑥（1）くらしのサポーター養成講座、（2）いきいき元気サポーター養成講座になります。今年度は別々の講座として、9月から10月にくらしのサポーター講座を開催し、

終了後に11月から12月にいきいき元気サポーター養成講座を行っていました。令和6年度は共通する内容はくらしのサポーター、いきいき元気サポーターと一緒に受けることができるよう同時開催で進めていきます。

⑦高齢者生活支援体験事業「くらしのてつだい隊」です。子供たちと地域の高齢者の方々の交流の場として事業をすすめてきました。参加者が少ないことが課題でした。そのため、従来の「くらしのてつだい隊」は、廃止としまして、社会福祉協議会で行っております福祉教育推進事業「まなびネット」へ統合となる予定で検討しています。生活支援コーディネーターとしては、「まなびネット」との連携を取っていききたいと思えます。⑨マッチングになります。これまで、生活支援コーディネーターの役割について積極的な周知をしておりませんでした。そのこともあり、相談件数は毎年数件となっています。次年度は、住民や専門職に、生活支援コーディネーターの役割を周知しながら、個別ニーズへの対応をメインに活動をしていきたいと思えます。

以上、報告と令和6年度生活支援体制整備事業計画（案）になります。皆さんから、御意見御感想ございませんでしょうか。

（特になし）

○（事務局）高橋ゆかり はい、ありがとうございます。では、報告は以上とさせていただきます。

○小野俊次会長 4. 協議事項に入ります。（1）地域の現状から見えてきた課題について、（2）課題解決に向けた取組について、事務局から説明をお願いします。

○（事務局）高橋ゆかり 前回の会議の際に地域の現状について、普段の暮らしが難しくなってきた人の現状について皆さんと共有をさせていただきました。目指す姿と皆さんから出してもらった地域の現状から、①身体的・精神的低下は、徐々に進行するため本人も家族も気づきにくい。「ちょっと困った」は声にしにくい。②「望む生活」は多様なのに対して、地域資源の選択肢が少ない（見えない）③困ってからの対応には限界があるという課題を導き出すことができました。この課題についてご意見ををお願いします。

○加藤芳郎委員 目指す現状の課題ということですが、これをどう具体化していくかということになると思えます。「どこにどうすればいいか」窓口がはっきりしていると良いと思えます。また、不動堂4区の取り組みはどのようにして始まったのか興味があります。とても良い例であり、広報できる機会があればいいと感じました。

○角田フミコ委員 生活支援体制整備事業「地域の支え合いモデル事業」を活用して、行政区の中で話し合いを重ねました。その中でアンケートを取ることにしました。アンケート結果から、不燃ごみの集積所が1か所しかなく、重いごみを運ぶことが大変であることが分かりました。どうしたらいいかを区長さんを中心に話し合い、「よんくおたすけ隊」を結成、月に1回不燃ごみを運ぶお手伝いをしています。

○小野俊次会長 不動堂4区の例を聞くと、どんなことに困っているかということが分からないと始まらないと感じました。また、困ったときにどこに、誰に相談したらいいかを知っておくことが大切ではないかと思いました。区長や民生委員、隣の人でもいいと思えます。そういったつながりが大切であると感じます。本当に困っている人は言えない部分もあると思えます。その辺りは引き出していく、周囲が気づいていくことが必要になると感じました。

○（事務局）高橋ゆかり ありがとうございます。課題についてはこの内容でよろしいでしょうか。

（特になし）

はい、ありがとうございます。では、見えてきた課題について前向きに課題解決に向けて、どんなことができたらいいかを話し合っていきたいと思います。各グループで話し合いをお願いします。話し合いの後に発表し、共有していきたいと思います。

～2つのグループに分かれ、グループワークを実施～

○（事務局）高橋ゆかり では、各グループで発表し共有をしたいと思います。

○（事務局）田村 その人が何を望んでいるか、困っているかは分からないがその人が信じられる人、私をいつも知っていてくれる人が近くにいたら安心できるのではないかという話がありました。それは、家族かもしれない、親友かもしれない、地域の方かもしれない、専門職かもしれない、大事なことは近くにいて自分を見守ってくれている存在がいることではないかという話になりました。

「好きなことがあること」「頑張れる何かがあること」がいいし、それを動画や写真、絵などで楽しさが分かる「選べるリスト」があると良いという意見がありました。また、今あるグループに途中から参加することは難しいという意見があり、ひとりでも参加できる活動やSNSを活用した活動も良いという意見が出ました。

○（事務局）青木 交流、お茶会、話しやすい雰囲気がある場所、前向きな人が近くにいると周りも元気なるとい話がありました。困ったことを相談するというより、やりたいことを話すようになるのではないかという話になりました。

不動産4区であれば、漫画家がチラシ作りを協力してくれており、目につくチラシになっているという話になりました。また、人が人に伝えることも大切という話もありました。元気なうちからつながりを作る、つながりの相手が自分よりもちょっと若い方だと元気をもらえるのではないかという話がありました。要介護の状態であっても知識、経験を伝えることはできるという話もありました。文化・伝統が伝わっていくのではないかという話がありました。

○（事務局）高橋ゆかり ありがとうございます。埋もれる声に気づくために共通していたのは、関係性であると分かりました。また、どんな状態になっても誰かの役に立てる方策がたくさん出ました。協議会委員のみなさんと協力して出来ることもあると感じました。次年度までに事務局でまとめ、取り組んでいきたいと思います。

これで令和5年度第4回生活支援体制整備協議会を終了します。ありがとうございました。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委員

委員